



2011年7月19日掲載

## 解決策は、欧州の一層の統合—その逆にあらず

---

### アントニオ・ボルヘス

嵐の中、進むべき航路を進み続けることは容易ではありません。しかし、欧州の統合を実現しようとするならば、欧州の政策担当者はその道を貫かねばなりません。ソブリン債危機は深刻であり、この問題を過去のものとするためには、全関係者による断固とした連携が不可欠です。

低成長という厳しい冬の時代から永遠に抜け出せなければ、嵐を乗り切ったとしても、ユーロ圏にとり大きな意味はないと言えるでしょう。現在、ドイツは、記録的なペースで成長していますが、年の成長ペースが1.5%と緩慢だった時代は1995年から2007年で、そう遠い昔のことではありません。一方で同じ時期、スウェーデンは年3%、米国は同2%の成長を見せていました。

5年から10年の後、そして世界貿易が再び冷え込んだ場合、改革なくしては、ドイツの成長は、このとき以上の落ち込みを見せるのではないかと、多くの専門家は危惧しています。現在台風の目にある国々の状況は、更に厳しいものとなっています。

欧州経済通貨同盟（EMU）の安定性及び頑健性の維持には、力強い輸出と健全な内需双方に支えられた、高い成長が不可欠です。

### 経済ガバナンスの深化のための改革

成長の引き上げには、構造改革と経済統合の深化という道を通らなければなりません。しかし、この全てが「言うは易く行うは難し」であることは間違いありません。

統合深化に向けたガバナンス改革は、困難な作業となるでしょう。しかし、国債の問題が頻発していることを考えるならば、財政規律の総体的な強化は不可欠でしょう。これには以下が必要です。

- 安定・成長協定の強化
- 国の財政機構への一層の発言権の付与
- 動き出した欧州金融安定化フレームワーク（European financial stability framework）を形にする

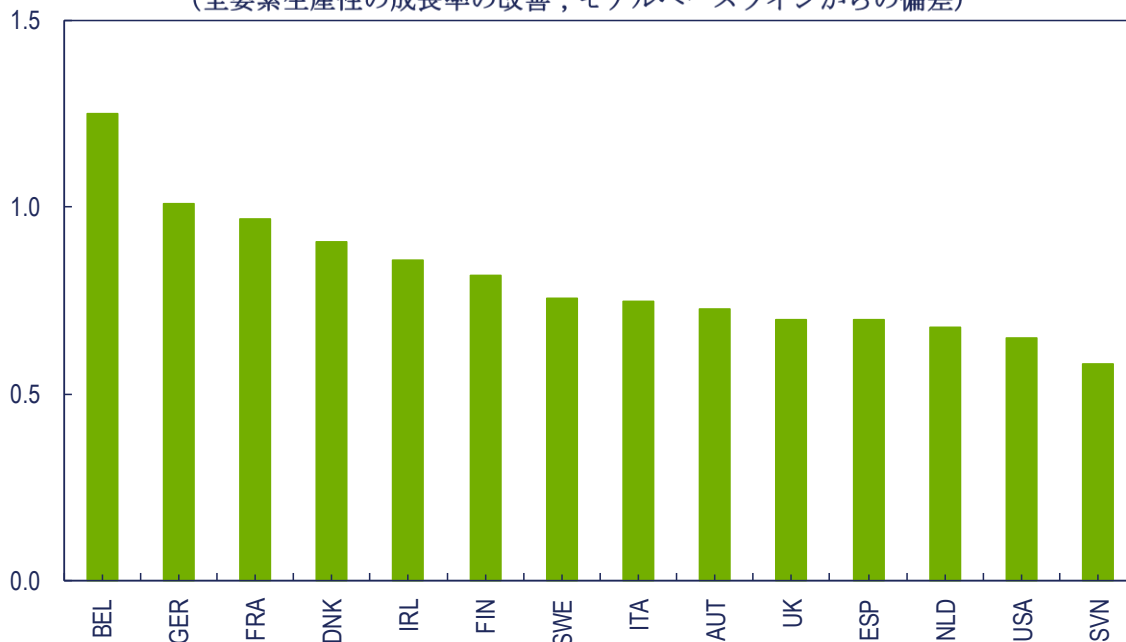
経済ガバナンスの強化は、ユーロ圏の信認を支え、投資と成長を脅かす市場のボラティリティの抑制につながります。

### 成長をどのように押し上げるか

しかし、ユーロ圏が成長の引き上げに頓挫する可能性が、より大きな問題として懸念されます。成長を引き上げることで、さらに強固な通貨同盟が実現するのみならず、一段と望ましい結果が導き出される可能性がより高くなることから、成長の押し上げは重要です。[IMFの対ユーロ圏定期サーベイランス（政策監視）](#)の一環として行われたリサーチによると、改革を適切に行なうことで、各国の改革開始当初の状況によりますが、年成長が約0.5%~1.25%ポイント上昇する可能性があります—これは決して小さい数字ではありません。

この際、規制緩和と労働者スキルへの投資により技術の向上を図ることで、労働力と資本の生産性の向上を実現することが、カギとなります。また、統合が深化した場合、競争による投資とイノベーションへのプラスの影響を主な背景に、更なる高成長が可能になる傾向があります。

どこまで飛べるか？改革の最大限の効果Ⅱ  
(全要素生産性の成長率の改善；モデルベースラインからの偏差)



出所：KLEMS データベース、IMFスタッフ推定

Ⅱ/シミュレーションは、各国が、規制、情報通信資本、技能レベルを調整し、サンプルのベストプラクティスからの差異半分をカバーすると仮定し、改革の範囲を示す。開放性は、全てにおいて10%ポイント上昇。詳細は、Section V. in Euro Area Policies, Selected Issues (2011年7月)、セクション5を参照のこと。

## 好機をつかむ

これまで述べてきたこと全ては、成長の引き上げは、可能であるのみならず、製品市場やサービス市場の柔軟性の向上や単一の欧州市場の実現にむけた国としての取り組みをはじめとした、特定の改革とリンクしていることを示しています。これまで「ナショナル・チャンピオン」を保護するという観点から、他国による買収が限定的だった金融部門において、自己資本の自由な移動が特に重要であり、また危機の記憶が残っている間に、これらの好機を捉えることがカギとなります。

これまでも欧州は、厳しい天候を潜り抜けてきました。IMFのジョン・リップスキ―筆頭副専務理事が先日述べたように、第二次世界大戦以降の欧州統一に向けた歩みは、欧州連合（EU）を創設しユーロ圏を築き上げた時のリーダーたちが、当時の危機の先を見越していたことなど、輝かしいものであるといえます。

今日の政策担当者が、この姿勢を継承するならば、構造改革と経済統合の深化を押し進めなければなりません。安定・成長協定の強化計画から、競争力と財政規律の向上のためのユーロプラス協定の下で誓約された様々な措置といった、現在進行中のイニチアチブを歓迎する声は多く聞かれます。しかし、成功を確実なものとするには、諸計画は依然として十分ではなく、政治家も国民も、欧州プロジェクトに対し誓いを新たにすることに消極的です。成功には新たな措置が必要です。

危機を過去のものとするには、欧州の一層の統合を早急に押し進める必要があるのです。決してその逆ではありません。



アントニオ・ボルヘス：IMF 欧州局長。スタンフォード大学より経済学博士号を取得。IMF に加わる前は、ヘッジファンド基準審議会議長を務める。2000 年から 2008 年まで、ロンドンのゴールドマン・サックス・インターナショナルのバイス・チェアマン、1993 年から 2000 年まではフォンテーヌブローINSEADの経済学教授及びビジネススクールの学長を、1990 年から 1993 年までは、ポルトガル銀行の副総裁を務める。新リスボン大学、スタンフォード大学、ポルトガル・カトリック大学での経済学部客員教授の経験も有する。